資料３

茨木市のまちづくりに関する アンケート結果（概要版）

令和５年11月　茨木市企画財政部政策企画課

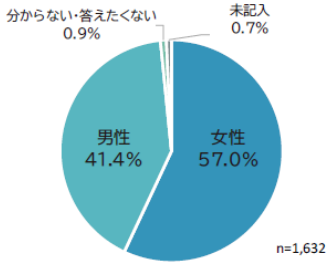
01 調査概要

本調査は、「第５次茨木市総合計画」が令和６年度に目標年次を迎えるため、これに続く「（仮称）第６次茨木市総合計画」の策定に向け、市民が日頃まちづくりについて考えていることや、率直な意見を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

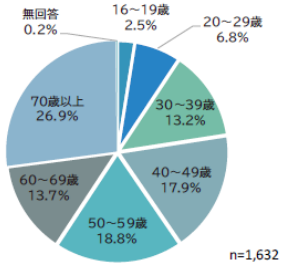
調査対象	茨木市に居住する１６歳以上の市民5,000人
調査期間	令和５年７月５日（水）　～　７月２３日（日）
調査方法	無作為に抽出し、調査票を郵送により配布 郵送またはWebにより回答
回収率	３２．６％　　1,632票（うちWeb 958票）／5,000票

02 回答者属性

■ 性別



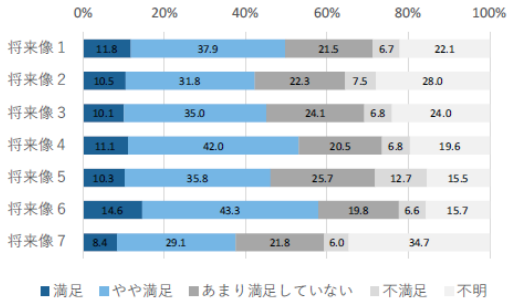
■ 年齢



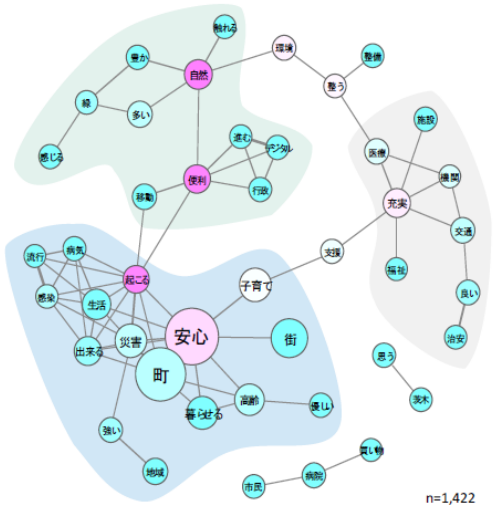
03 将来像別満足度

現総合計画における将来像別の満足度は、環境に関する将来像６の満足度が５７.９％（満足、やや満足の計）と最も高く、将来像７について３４.７%が満足度不明となっている。

将来像１	ともに支え合い、健やかに暮らせるまち
将来像２	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
将来像３	みんなの"楽しい"が見つかる文化のまち
将来像４	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
将来像５	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
将来像６	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
将来像７	まちづくりを進めるための基盤



04 暮らしたいまち（自由記述）



（AIテキストマイニングによる分析）
出現回数の多い単語は大きく表示され、関連性の高い言葉が線により結びつけられている

テキストマイニング結果を分類すると以下のとおり。

安心に関すること

「災害」発生時や、「子育て」世帯・「高齢者」が安心できるまちという意見が最も多かった

「感染症」や「病気」の時に安心できるまちや漠然と安心を求める声も多く見られた

自然と利便性

豊かな「自然」「緑」に触れることができるようなまちを求める声が多い

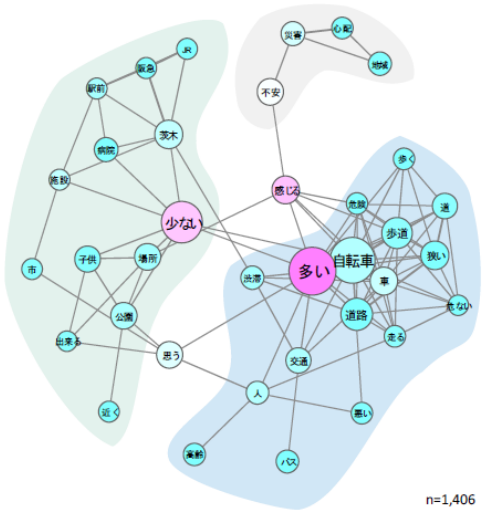
「移動」が便利なまち、「デジタル」化された行政により便利なまちを望む声も多い

さらに、「自然」と「利便性」の両立したまちで暮らしたいという声も見られた

交通・福祉の充実

「交通機関」、「医療機関」や「福祉施設」の充実したまちを望む声も多く見られた

05 不安・不満を感じること（自由記述）



交通に関すること

「自転車」が多く歩きづらいなど、自転車マナーに関する意見が最も多かった

「歩道」や道路の狭さ、「渋滞」に関しての意見も多くみられた

コミュニティバスなど市内の移動に便利な「バス」を求める声も多い

求められている場所・施設（少ない）

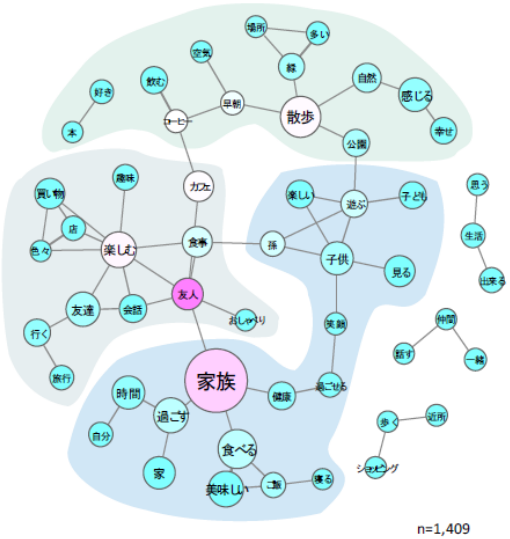
子どもが遊ぶ「場所」「公園」が身近な場所に「少ない」という声が多い

「病院」や「駅前」に色々な施設を求める声も多くみられた

不安に感じること

「災害」発生時に「地域」のつながりが薄く不安に感じるという意見が多い

06 幸せを感じること（自由記述）



家族に関すること

最も多く出た単語は「家族」であり、一緒に過ごす時間や一緒にご飯を食べた時などの意見が多い

家で過ごす時間など、何気ない一日で幸せを感じるという意見も多く見られた

家族の「健康」や「笑顔」などを願うという意見も多い

ゆったりと過ごす時間

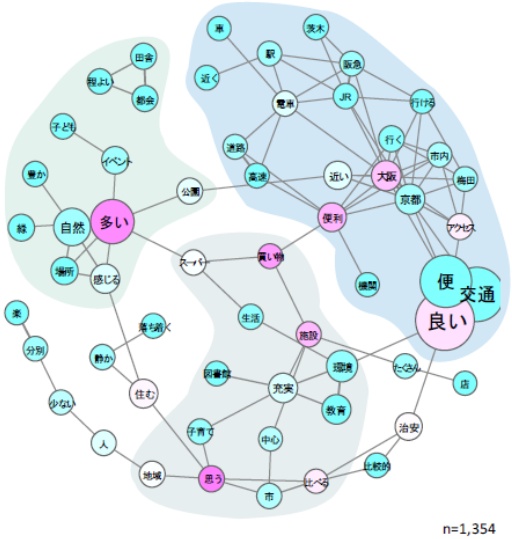
公園で「散歩」をするときや自然を感じるところでくつろぐときなどの意見が多い

コーヒーを淹れたり、本を読んだりするなど一人の時間をゆっくりと過ごすときという意見も多い

活動的なとき

友人と買物や食事するなど、まちに出てアクティブに活動するという意見も多く見られた

08 まちの魅力（自由記述）



交通の利便性

大阪や京都へのアクセスの良さから「交通の便」が良いという意見が最も多かった

鉄道の利便性に加え、高速道路による広域アクセスの良さについての意見も見られた

自然の豊かさ

「自然」を感じることができる場所が多いなど緑の豊かさを魅力に感じる意見が多く見られた

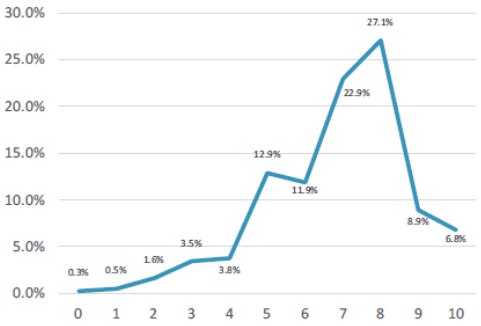
「田舎」と「都会」のバランスが程よく取れているという意見もあった

その他

「子育て」や「教育」環境が充実しているという意見や、スーパーなど「買い物」が便利という意見も多く見られた

07 幸せ

■ 幸福度（10点満点）

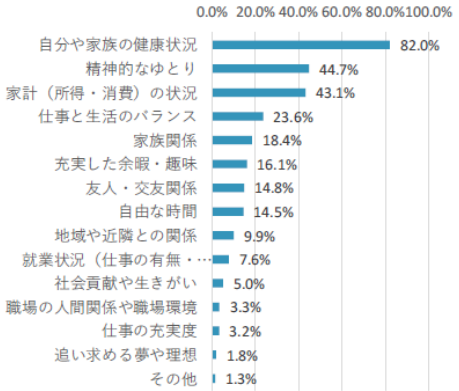


n=1,597

全体の平均は6.897点となっており、世界幸福度報告（2023年）の日本の平均である6.129点を上回る結果となった。

「８点」が27.1%と最も多く、次いで「７点」が22.9%、「５点」が12.8%となっている。

■ 幸せに重要なもの（３つまで選択）



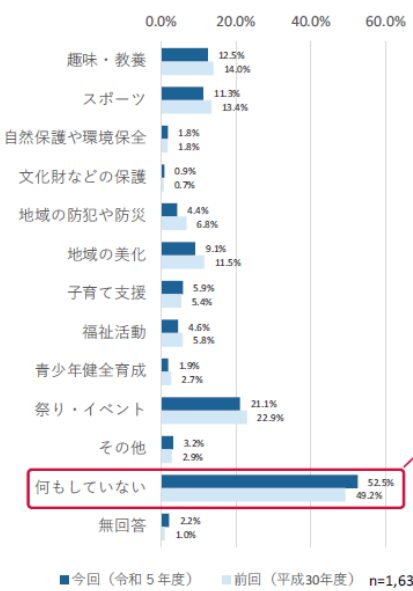
「自分や家族の健康状況」が82.0%と最も多く、次いで「精神的なゆとり」が44.7%、「家計の状況」が43.1%となっている。

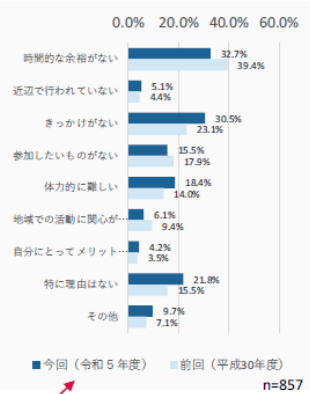
09 市民活動（複数回答）

茨木市内での活動としては、祭り・イベント」が最も多く21.1%、次いで「趣味・教養」が12.5%、「スポーツ」が11.3%となっている。

前回調査と比較すると、各項目の順番に大きな変動は見られず、各項目ともに前回調査よりやや割合が低下しているが、「子育て支援」については、5.4%から5.9%に増加している。

また、「何もしていない」の割合が、49.2%から52.5%にやや増加している。





活動していない理由としては、「時間的な余裕がない」が最も多く32.7%となり、次いで「きっかけがない」が30.5%、「特に理由はない」が21.8%となっている。